平成 23 年 1 月 15 日　　No.38(22―4)

建設防災
ボランティアニュース
第 38 号

年頭のご挨拶

新年明けましておめでとうございます。暮れから新年にかけて日本海側では、寒波による大雪に見舞われ多くの方たちが被害にあわれました。心からお見舞い申し上げます。関東地方は好天に恵まれ皆様穏やかなお正月を過ごされたことと思います。

昨年、日本は政治の低迷により多くの課題が未解決のまま先送りされました。消費税の関係する財政再建の問題、普天間基地や尖閣諸島、北方領土の外交問題、ＴＰＰ参加の経済問題、民主党が掲げたマニフェストの扱い等々です。

今年こそ目先の対応に追われるのではなく中長期の展望に立った日本の進路を示してほしいものです。

また、昨年は、国内で幸いにして大きな地震などによる災害はありませんでしたが７月には集中豪雨による土砂災害で多くの方たちが被災し貴重な人命まで失われました。

常に私たちは自然に対する警戒感を怠ることなく備えを忘れてはなりません。おかげさまで、当協会の昨年の事業計画は、会員の皆様のお力によってつつがなく達成すことができました。これもひとえに会員皆様の当協会の活動に対するご理解のおかげと感謝しております。

今年も建設局と連携を密接にして協会活動の一層の充実を図り、災害に備えていきたいと考えています。役員一同心を新たにして頑張ってまいりますので、会員皆様の変らぬご協力をお願い致します。

この１年がウサギ年にあやかり大きく飛躍して、日本が明るい展望の持てる年になりますよう、そして会員皆様のご健康とご多幸を祈念いたします。

末尾になりましたが日頃当協会活動に御支援とご理解をいただいております東京都建設局、東京都道路整備保全公社、東京都公園協会にお礼申し上げるとともに今年度も変わらぬご指導をお願い致しまして年頭のご挨拶とさせていただきます。

建設防災ボランティア協会長　沼尻　孰

施設見学会の開催
（東京スカイツリー建設と街づくり）

平成22年11月12日、いま最も注目を集めている建造物である「東京スカイツリー」の建設と周辺の街づくりを見学しました。「東京スカイツリー」は、完成すれば 634m（ムサシ）の高さとなり自立式電波塔としては世界一の高さとなります。

現在の高さは497mですが、12月にはアンテナを取り付けたゲイン塔（先端部）が顔を出します。「東京スカイツリー」建設にあわせ交流広場や商業施設等の整備、さらには周辺の道路整備及び河川整備等も行われ、総合的な街づくりが進められています。

案内は、東武鉄道（株）の岩井参事役と江東治水事務所の西村課長にお願いしました。

左から岩井参事役1おいて人西村課長

参加人数は48名で真剣な質問が多数出されるなど、大変有意義な施設見学会となりました。

担当理事　藤田　進

施設見学会報告

東京スカイツリーの建設事業は、おそらく今日本で最も注目されている現場であろうと思われます。今年度の施設見学会は、そのタイムリーさと建設技術に対する興味深さがあいまって 48 名の協会員が参集しました。

11 月 12 日、午後 2 時 50 分の参集時間の 30 分前にほぼ全員が集まり、第二東武館 6 階の会議室と屋上で、会員の東武鉄道業平橋押上地区開発事業本部岩井壯三参事役より丁寧な説明を受けました。

会議室で説明を聞く会員

屋上で岩井会員の説明を聞く

東京スカイツリーは、業平橋押上地区開発の土地区画整理事業約 6.4ha の真ん中に位置し、その東・西街区には商業施設、事務所、スクール施設、水族館等の集客施設の建設も同時併行されております。

ご存知のようにタワーの高さは 634（ムサシ）m になりますが、当日の建設高さは 498mにまで成長し、これからリフトアップされるゲイン塔（デジタル放送用アンテナを取り付けるための最上部の細い塔体）が鋼管トラス塔体の内部で作製中とのことでした。岩井参事役からは、基礎杭のナックル・ウォールや心柱制振、鋼管トラスの現場溶接、シャフト内部のエレベーター（分速 600m の超高速 40 人乗り 4 基）や超高層クレーンの吊り荷の制風工夫など興味深い説明をいただきました。

その後、北十間川の南側に移動し、江東治水事務所西村内部河川工事課長から、開発事業にあわせ整備を進めている北十間川と内部河川全体の整備状況を説明していただきました。東武橋と京成橋のほぼ中間には、都営地下鉄浅草線が走り、河床と約 1m の離隔しかなく、護岸の耐震工事の工夫や今後の舟運の困難性を説明していただきました。

施設見学後は、錦糸町の楽天ビルに場所を移動し、懇親会を開催し半分の 24 名が参加しました。現場の活気と酒に酔い、下町の未来が始まってきたことを実感した夜でした。

南西建班　高橋　紀男

救急救命講習会の報告

最近、駅や官公署で AED の設置が目に付く。緊急の際には有効にみえるが、素人には操作が難しそうに思っていた。今回、初めて普通救急講習会を受ける機会を頂いて、3時間みっちり講習を受けた。

参加者は本協会から 15 名。いつ来るかわからない災害に対して、救急車が到着するまで現場での救急措置が、時間との勝負がいかに重要であるか、自分達の生命、身体は自分達で守るという心構えの必要性をまず教えられる。

人口呼吸訓練の様子

講師の話だけでなく、15 人の参加者が実際に交代で救助者になり、声を出しながら人口呼吸、心肺蘇生、AED の操作を繰り返し行う。

人口呼吸訓練の様子

講師の説明

胸骨圧迫 30 回を繰り返すと結構きつい。だんだん余裕がでてくると、大きな声で胸骨圧迫数を数えたり、傷病者にことわってから胸を開いたり、まわりの人に救急車の依頼や AED の搬入依頼ができるようになる。しかし忘れることも早いので生きた練習のためには反復練習が必要と痛感。

こうした救助の内容を知っているか、いないかは実際に救助の現場に遭遇した時に各人の行動がまるっきり違ってくると思える。救急車が要請を受けて現場に到着するまで平均 6 分～7 分とのこと。

日頃から応急手当に関する知識と技術を身につけておくことがやはり大切。一人でも多くの人が応急手当を出来るようになればお互いにその場で助け合うことが出来る。

今回は貴重な体験をさせて頂いて有難うございました。是非たくさんの方が受講されることをお勧めします。

南東建班　　松田　信毅

平成22年度砂防講習会報告

今年度の砂防講習会が12月20日モノリスで開催され 49 名が参加した。講演に先立ち、挨拶された横溝河川部長から河川愛護月間や防災訓練においての、当協会の協力に対し感謝のお言葉を頂き恐縮した。

横溝河川部長の挨拶

また、7月5日の集中豪雨により石神井川が氾濫し、大きな被害が発生したが、都議会において河川整備事業の重要性が指摘されたとのお話があった。

続いて、佐々木防災課長からは、砂防関係事業の予算と最近のトピックとして深層崩壊のメカニズムについて、台湾の小林村で発生した2、000万㎥の崩壊を事例に説明を頂いた。

講演に入り、防災課南砂防係長から「火山砂防・火山防災」と題してお話を頂いた。南係長は自ら火山オタクと仰り、世界と日本の火山数の比較やハワイの火山の資料を示し説明を頂いた。また、長崎普賢岳の土石流の動画を紹介され、あらためて土砂災害の恐ろしさを実感した。

計画課永田計画調査係長から「土砂災害ソフト対策」と題して土砂災害防止法改正の背景や、現在西多摩で進めている土砂災害警戒区域指定状況の説明があり、今後は町田や八王子地区でも指定の実施をして行くとのことであった。

最後に防災課防災係の三村さんから「気象情報・土砂災害警戒情報の活用について」のお話があり、気象庁から出される注意報・警報の発表が、平成 22 年の 5 月27日から市区町村単位に

なり、よりきめ細かくなった事、予報に土壌雨量指数・流域雨量指数等新たな指数を導入した事、さらに気象情報の種類、気象用語の説明等、気象庁から出向されている三村さんならではの説明であった。

3名の方々の講演はそれぞれ非常に興味のある内容で楽しく聴講できた。

聴講中の会員

年末のお忙しい中、河川部長はじめこの講習会に係わって頂いた河川部の職員の皆様に改めてお礼を申し上げます。ありがとうございました。

西建班　岸　忠夫

道路施設バリアフリー点検の報告

12月8日午後、三建の秋季道路施設バリアフリー点検が行われました。今回の点検箇所は環状七号線の青梅街道交差点から南へ、善福寺川までの約 1.5 kmの区間で、参加者は三建が老沼所長、塚本管理課長、菅谷補修課長以下 11 名、協会員は井出リーダー、小川副リーダー、飯山、小川(祐)、中田、加藤、雑賀の 7 名でした。

点検は、参加者が内回り、外回りに分かれ、それぞれが車椅子等を使いながら行いました。今回の点検箇所は、歩道が狭いという環七が抱える課題を除けば概ね良好でした。

私は地元に居るものですから、この近辺なら青梅街道にある東京メトロ新高円寺や南阿佐ヶ谷駅付近を優先して点検してほしいと思いました。こうして道路施設点検に参加していると、それぞれの箇所で現役時代の思い出が蘇ってきます。

環七は私が安全施設課に勤務していた頃、歩道を広げるため全線 4 車線化を検討していました、各種データを解析する一方、車で、徒歩で何回となく足を運び検討していましたが、車線を減らすということには抵抗が多く、残念ながら事業化出来た記憶はありません。だから、いまだに点検が必要なのでしょうが、拡幅だけでなく、バリアフリーと言う観点から歩行空間が少しでも改善されることを期待します。

最後になりましたが、三建班ではリーダーの計らいでバリアフリー点検時にはなるべく多くの方に参加して貰い懇親会を行っており、今回も7名が和やかな一時を過ごしました。

三建の職員と参加会員

三建班　雑賀　徹

協会からのお知らせ

1.新規入会員の紹介

井上　幸夫　(南西建・H22.10.05)
小口　健蔵　(西部公・H22.10.05)
谷村　秀樹　(西　建・H22.10.05)
橋本　栄良　(二　建・H22.10.05)
藤江　賢治　(北北建・H22.10.05)
三浦　榮一　(四　建・H22.10.05)
敬称略(参集事務所・入会年月日)

2.平成 22 年度初動対応訓練のお知らせ

今年度の建設局初動対応訓練は、平成23年2月4日(金)、午前7時 30 分～12 時にかけて行われます。

寒さ厳しい時期ではありますが、参集訓練・本部運営訓練に皆さまのご参加をお願い致します。

担当理事　本間　弘

発行人: 沼尻　孰
発　行:東京都建設防災ボランティア協会
所在地:東京都新宿区西新宿 2－3－1
財団法人　東京都道路整備保全公社内
編　集:加藤　基雄、中田　勝司、丸岡　敏夫